九州圏・アジアとの経済関係強化について
「ヒーリングアイランド・九州を目指して」

㈱ＤＬＣ日中ビジネスコンサルティング　代表取締役社長　　青木　麗子

アジア地域の経済発展やマーケットの拡大に伴って、これらの地域から日本への輸出入の割合が高まっています。特に中国から九州経済圏への貿易額は年々増え続け、2005 年には対前年比 15.9%増となり、11 年連続で過去最高を記録しました。今後、九州と中国などアジア地域の経済交流は良好に推移すると見られます。特に中国経済においては、2020 年にはほぼ日本と並び、そして 2030 年には日本を大きく抜いて、アメリカ経済に次ぐ第二の経済大国となる事が予測されています。中国をはじめとする発展するアジアに着眼し、どのようにすればアジアのダイナミズムを九州域内に取り込むかをしっかりと考え、迅速かつ大胆な取り組みが求められています。

九州は地理的に中国大陸と朝鮮半島に最も近く、古くからこれらの地域と密接な交流が行われ、アジアの人々と様々な角度で共生してきています。日本国内の他の地域とくらべて、九州人は精神的にこれらの地域をより身近に感じているものと思われます。近年、日本と中国、韓国との政治的関係が冷え込んでいる状況に陥っても、九州とこれらの地域との地域間交流と貿易往来は停滞することなく、以前よりもまして増え続けているということも地域の特有性が現れているのではないかと思います。**そして、今、**九州の企業の多くは中国をはじめとする発展するアジアに注目し、可能性にチャレンジーしようとより踏み込んだ動きが見られています。

現在のアジアビジネスの現状や将来性、さらなる発展のための課題などについて考え、纏めながら今後の九州が目指すべく方向性について描いてみたいと思います。そこで、私は今後、この九州のポテンシャルについて思いを巡らせているうちに「ヒーリング」というキーワードに辿り着きました。二十一世紀に生きる人々は「健康と癒し」が最大のテーマとなっています。経済がものすごい勢いで発展し、人間を取り巻く社会環境が目まぐるしく変化して行く中で人々はストレス漬けとなり、また飽食による成人病にかかる人々が年々増加しています。この視点に立って、九州のもつ優位性と特徴を考えた時に、将来、九州地域は、アジアの人々にとって大きな意味合いでの「ヒーリングアイランド」となりうるのではないかと思われます。もちろん、そうなるためには、多くの課題をクリアし、しっかりとしたビジョンの下に、国家レベルの政策誘導と域内の人々の固い決意が必要不可欠だと思いますが、しかし、やる気さえあればかなり実現性が高いのではないかと思われます。

《「ヒーリングアイランド」になりうる要素と九州の強み》

●九州の持つ潜在的能力には、とても大きな物があると思います。まず、観光資源や食文化、農林水産品などの「豊か自然、悠久なる歴史という資産」を有し、成長するアジアと地理的に非常に近い場所に位置しています。

●九州を点ではなく、面として見渡した時、福岡県には医学部をもつ大学が複数あり、医療技術も大変進んでいます。そして、雄大な自然と世界でも珍しい活火山をもつ熊本県、大規模な温泉地が集積する大分県と鹿児島県、かつては日本のハワイと言われ、美しい海をもつ宮崎県、陶磁器や温泉でも有名な佐賀県、世界平和のシンボルである長崎県には、アジアの人々が憧れるハウステンボスもあります。また、九州には、美しい海岸線をもつ島々が多く点在していることに加え、これらの地域には、海や山な

どの新鮮食材に恵まれ、いずれもスリルではなく、癒しを求めるアジアの人々を引きつけるための要素を持ち合わせています。
●九州の政治、経済、文化の中心的地域である福岡市は、かつて、香港のアジアウィークの雑誌によるアンケート調査で、三回にわたって、アジアのベストシティーに選ばれています。文字通り、アジアの人々はこの福岡の地を人間が居住するのにもっとも適している地域だと認めているのです。今、中国をはじめとするアジアの多くの人々は大都会である東京と大阪などが人気なのですが、しかし、これからは、癒しを求めて、東京や大阪ではなく、九州のような自然がたくさん残っている地域にやってくる人々が増えていくと考えます。
●中国においては、医療環境の整備が大幅に遅れているため、人々は安心して病気治療を受けられる事ができない状況にあるため、最近では、病気検査と治療のために、福岡にやってくる人々も徐々に現れているようです。もし、外国人をも受け入れられるような保険システムが整うことができれば、福岡は一大メディカルセンターになるはずです。
●また、南九州は大自然に恵まれ、豊富な食材があり、観光資源も豊かです。そして、農業や水産業の面でも蓄積された経験と進んだ技術をもっています。「食と農」の面においても、今後アジア地域との交流の中で大きな力を発揮することができるものと思われます。
●「ヒーリング」の中で、「食」は極めて重要なことです。食の問題と健康関連における、人材育成などにおいて、九州は大きな強みをもっていると思います。九州地域は教育の面も大変優れているので、人材育成の中心地域として中国を始めアジアの人々と協力できると思います。
●また、「ヒーリング」の中で、汚染のないような環境作りもまた極めて大切なことです。九州は環境産業の面においても世界的に進んでいる地域であり、豊富な知識が集約されています。ですから、「環境知識センター」としても、アジア地域との共同研究開発と協力が出来るものと考えます。環境問題は国境がありません。中国では水処理、ゴミ処理、資源、エネルギーの再生利用が大きな課題となってきています。これらの分野の人材交流を経て、協力の可能性などが広がると思います。

《「ヒーリングアイランド・九州」を実現させるために、解決すべき課題》

以上な優位性をもつ一方、「ヒーリングアイランド・九州」を実現させるために、解決すべき課題も多く抱えているということもまた事実です。これらの課題を洗い出し、実現に向けた努力をしなければなりません。

一　異文化への理解と尊重

アジアの人々との共生を図って行く上で、一番大切なことは互いを理解し、互いを尊重し、偏見をなくすことだと思います。そして、日本とアジアとの外交が円滑に進められ、安定した国際政治環境が必要不可欠だと思います。

私は、これまでの人生のうち、約十七年という長き間、中国、アメリカ、イギリスなどの海外で暮らしてきました。そして、今も仕事の都合上、年間三分の一の時間は中国と日本の間を行ったり来たりしています。もちろん中国だけではなく、時には欧米やベトナムなどのアジアのいろいろな地域にも足を運び、外から日本を眺めことを心掛けています。そうすることで、日本の良さを改めて認識させられる事ももちろんありますが、しかし、日本の現状を改めて振り返ってみた時に、言葉では言い表すことのできないある種の焦りと危機感に駆られるのです。そこでいつも思う事は、我々日本人は一刻も早く、

平和惚けから目を覚まして、もっと外の変化に気づき、しかるべく生き方を選ぶ必要があると思えてならないのです。

中国は今、日本の状況とは対照的に、共産党一党支配の最大の強みと売り手と買い手の強みを十分に活かしながら、様々な社会問題を抱えつつも、安定とした政権運営の下で、国家的中、長期ビジョンに基づいて、未来を見据えながら、戦略的にダイナミックな取り組みがなされ、目を見張るばかりの経済成長を実現させ、国際社会における発言力がどんどん増しています。

日本は資源をもたない小さな島国で、どうしても外に求めて行かなければならない宿命にあるのです。ですから、惜しまぬ外交努力を積み重ね、「国徳」を積みながら、近隣諸国とよい近隣関係を築き上げ、時代をリードする技術を開発し、対外的な領域では思い切った規制緩和を行い、国際競争力を育みつつ、アジアの人々から信頼され、尊重され、必要とされる日本国を目指して行くことが、アジア地域との経済関係を強化して行くための重要なポイントであると考えます。アジアの人々と良好なコミュニケーションなくして、日本の未来はないし、そのことが経済関係を強化させるための第一歩だと考えます。

先月、イギリスのあるインターネット会社が、ネットを通して、ヨーロッパにある数万人の旅館経営者に対し、ヨーロッパに訪れている世界中の観光客のイメージに関する調査が行われたそうですが、アンケート調査の結果、好感度一位に日本人が選ばれています。また、時を同じくして、アメリカの雑誌「タイムズ」が 27 か国、3 万人の人びとに対し、世界の 12 の対象国に対するイメージ調査も行われました。その結果、これも好感度一位に日本国が選ばれているのです。

欧米諸国において、このように高く評価されている日本が、なぜアジアの人々からは尊重されないでいるのか、なぜアジアの人々の日本に対する評価がこんなにも大きな開きがあるのか、ここまできて、我々日本人はこの問題に対して、謙虚に真摯に考え直す時代にきているのではないかと思うのです。もしかして、この問題を解く事が、「アジアの時代にいきる日本の未来」を握る極めて重要なキーワードなのかも知れません。

二　留学生をはじめとする外国人を実践的な人材として活用

アジアビジネスを発展させるための人材としては、アジアからの留学生などの外国人をもっと活用すべきでしょう。今、日本は少子高齢化を迎え、今後ますます働く人口が減っていきます。けれども外国人の活用については壁が厚く、アジアの人間が多いといわれる九州でさえまだまだ進んでいません。アメリカではアジアを含めた外国人の人材を積極的に活用することで成功しています。こうした人々の能力を生かせるオープンな社会を作る事が何よりも大切だと思います。依然として閉鎖的な日本をどう打開していくかが大きな課題です。

今、国は留学生百万人構想を打ち出しています。九州地域が名実ともにアジアのヒーリングアイランドとなるためには、アジアの若者の活用は大きなテーマだと考えます。もしも、将来、医者や看護士、介護士などを目指す中国の優秀な若者をどんどん、九州地域に受け入れて、経済の心配をすることなく、安心して日本で学んでもらい、医者や看護士、介護士の資格がとれて、日本で活躍することができれば、アジアの「ヒーリングアイランド」構想もより現実的なことに近づけることができるものと思われます。

★九州には地域の優位性あり、知名度アップのための取り込みを

福岡や九州は立地的にもインフラ、ソフト環境の両面から見ても、アジアに対して優位性があると思います。ただし私たちがアジアのことを考えているほど、アジアの人々は九州を認識していません。知

名度不足なのです。今後はどれだけ知名度を上げていけるかが大きな鍵であり、その努力をする価値は十分にあると思います。今のアジアの人には、日本経済の中心は、東京や大阪だけと思われています。しかし、最近は、そうではないと疑問を抱き始め、新しいビジネスの場を求め、九州を意識し始めているのです。

★名実共に近い地域となるためにアジア地域からの個人観光ビザの解禁の早期実現を

今、アジアの観光客が日本にきたくても、団体観光ビザしか認められていません。しかも、この団体観光には様々な制約がついて、大変面倒だと言われています。最近では、これらの中国人観光客はビザのいらない、あるいは容易に取得する事の出る、東南アジアやヨーロッパを旅先として選ぶ人が増えています。これから日本も、団体客のみならず、ファミリーでも簡単に日本に旅ができるように、個人観光ビザの解禁をいち早く検討すべきだと思います。でなければ、すでに積極的に中国人観光客の取り入れ始めた、東南アジアやヨーロッパなどに取り残されかねません。特にこの九州地域はどちらかと言えば、団体観光客よりも、個人旅行者が旅するのに大変適している地域だと思います。

★鉄道やレンタカーでも気軽に旅行ができる環境の整備を

九州は鉄道と車の旅に適している地域です。域内の人々のみならず、海外・アジアの人々も簡単に鉄道とレンタカーを利用して、自由に旅ができるような地域になれば、利用者も多く増えて、域内の経済の活性化にも大きな弾みをもたらすことができるのではないかと思われます。そうなるためには、イギリスを始めヨーロッパの国々の観光システムを見習うべきだと思います。

★B&B やペンションのような宿泊施設の整備の制度化を

イギリスを始めとするヨーロッパの国々は、ファミリーやそれぞれの個人が簡単に旅行できるシステムが実に充実していると思います。我々日本人は旅行と言えば、かなりまえから、計画し、旅行社で予約してもらい、大きな旅館やホテルに泊まることが旅行だと考えている人が支配的なので、そうそう簡単に旅行にでかけられません。例えば、九州に、いつでも簡単に利用ができるような B&B やペンションのような宿泊施設がたくさんできれば、域内の人々もリフレッシュのために、手軽に家族で旅行に出かけられるようになりますし、海外から個人観光客もいつでも手軽に九州にウィクエンドバケーションにこられるようになるのではないかと思います。そうなれば、地域経済の活性化と団塊世代の人材の活用にも大きな弾みがつくと考えます。

★旅インフォメーションの整備を

ヨーロッパは、どこの国、どこの都市を訪れても、市の中心部に行けば必ず、旅行者のための旅インフォメーションがあります。インフォメーションにはその街の情報が集約されていて、ベテランスタッフが実に、親切に、旅行者から要望を聞きながら、旅行者の予算に見合った宿をその場で予約してくれるのです。九州にもこのような制度を取り入れられたら、名実とともに九州は点から面となるのです。

★旅を楽しくしてくれるエンターテーメント・和文化の商品化を

欧米のみならず、実はアジアの国々の人々も日本の和の文化に強い憧れをもっていて、癒しを感じると言われています。日本的な建造物、日本の伝統文化である、茶道、華道、日舞、和服、邦楽などなど。これは外国の人々にとってどれも刺激的なものばかりです。旅は非日常的なことを求めている訳ですから、九州にくればこれらのことが体験できるというのも、旅人にとって大きな魅力となるはずです。ですから、和の文化をもっと掘り起こして、産業化すべきだと思います。

★アジアの人々が喜んで求めるお土産品の開発

よく、アジアの人々から、日本の温泉地に行ってもあまりお金を落として行くところがないと言われ

ます。ブランド品や電気製品、そして化粧品の他に、彼らが求めているのは、買って帰って自慢の出来る日本らしいものなのです。少々値段が高くても、きれいで、珍しいものであれば喜んで買われるはずです。

《まとめ》

「ヒーリングアイランド・九州」の実現を目指ための九州アジア・ゲートウェイ戦略

東アジアのダイナミズムを地理的近接性という利点を持つ九州が取り込み、地域の活性化を図るためには、東アジアとのシームレスな交通交流インフラの整備はもちろん、取り込んだ東アジアのヒト、モノ、情報を域内で十分活用できるような流れを築くことが喫緊の課題であります。

現在、九州における東アジアのゲートウェイは、アジア太平洋１７都市に航空路線をもつ福岡空港、および国際航路をもつ博多、北九州の 2 港のほか、鹿児島、長崎などの空港が僅かに国際航空路線を有しています。しかし、福岡空港の利用は都心部に近いため７時～２２時までと制限されており、今後爆発的に需要が伸びる東アジアのマーケットから取り残される可能性も少なくありません。

また、九州域内の移動は、航空路、ＪＲ、高速バス、自動車であるが、九州の東西移動や東側の移動、山間部、離島などへの移動は不便な状況にあります。

九州は、自然、温泉、食など豊富な観光資源に恵まれる一方、適度な規模の都市が点在しており、東アジアからのヒトの流れを取り込み、域内で広く波及効果を生むためには、九州域内交通ネットワークの機能強化を図る必要が考えます。

まずは、域内移動にかかる交通手段の最適化、新しい交通手段の創設などを検討する「九州域内交通ネットワーク研究会」を行政、運輸関係企業、観光業者、病院等で組織し発足させるべきだと思います。研究会では、ニーズの検証（ビジネス、観光、療養、過疎地や離島での医療など）を行い、その移動を円滑にするための交通手段の効率的な活用や新たな交通手段の創設を提案し、域内交通の最適化に向けた問題点、規制緩和などを洗い出すべきだと考えます。

例えば一つの仮説として、爆発的に活発化するアジアの需要を取り込むゲートウェイとしての 24 時間空港の確立、上海、北京、香港、ソウルといった巨大都市とのネットワークよりもむしろ瀋陽、南京、済南、光州、高雄などの東アジアの地方主要都市と小型機で直結したゲートウェイ空港としての位置付けを明確にし、更にゲートウェイ空港から九州域内主要都市へは小型航空機や新幹線、高速道路を効率的に活用できるようにすべきだと思いますし、屋久島などの離島や高千穂、九重などの山間部とは、ニーズにより超小型機での乗り継ぎ等が考えられるのではないかと思われます。また、超小型機の運航、商業化に当たっての問題点、規制緩和等を調査研究し、九州航空特区の創設が検討されるよう期待しています。